

ワークショップ1

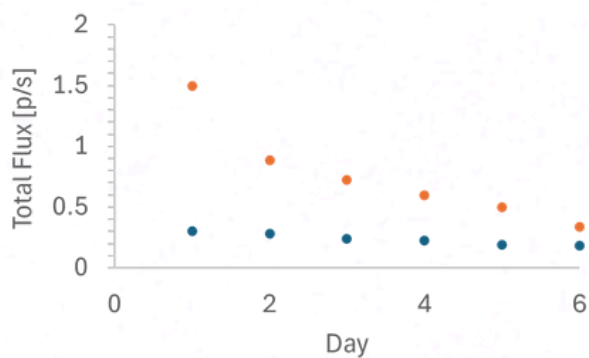
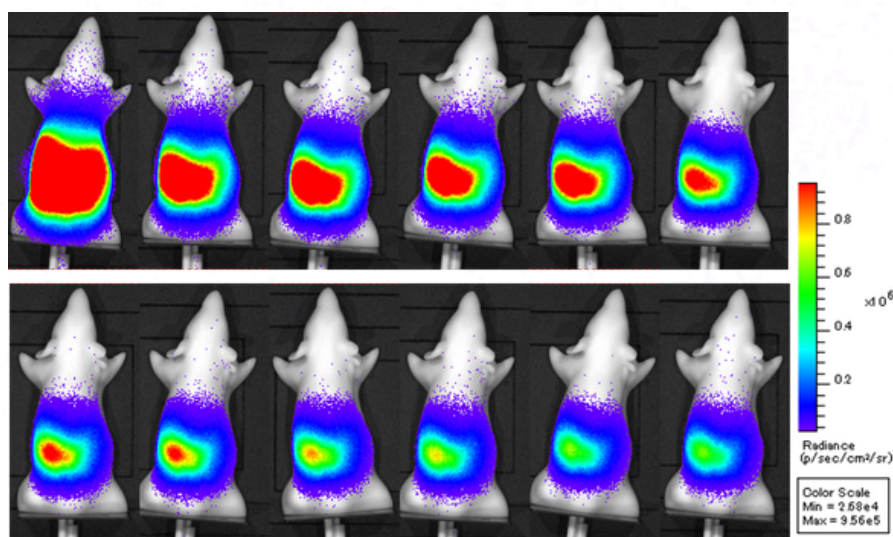
IVIS SpectrumCT2

in vivo 光イメージングの基本と実践

- 開催時間：10:00～11:40
- 開催場所：フォーラム会場内
- 対象：IVIS初心者・in vivo光イメージングの基本を学びなおしたい方
- 内容：基礎解説／撮影条件の決め方／画像解析／実践トレーニング



Figureを作ってみよう（実践）





ワークショップ2

CosmoScan GXIII

CosmoScanをもっと使いこなす！

～未活用機能のご紹介とAnalyze&LISAの解析事例～

- 開催時間：10:00～11:40
- 開催場所：ホワイエ内 CosmoScanGXIII展示スペース③

CosmoScan装置において、有用でありながら普段あまりご使用頂けていないと思われる機能を改めてご紹介するとともに、解析ソフトウェア「Analyze」および「LISA」を活用した具体的な解析事例についてご案内いたします。既にCosmoScanの基本的な使い方は把握されているものの、決まった機能以外はあまり活用できていない、という方々のご参加をお待ちしております。

- CosmoScanGXIII（デモ機）を使った実演、機能紹介
- Analyzeでの解析例のご紹介
- Revvity社AI支援画像解析ソフトウェアLISAを使った解析例（肺容積）のご紹介 他

ワークショップ3

STOmics

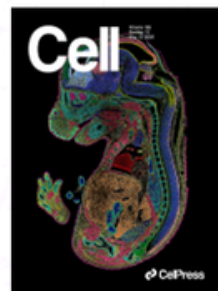
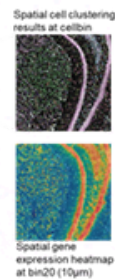
空間トランスクリプトーム解析 STOmics Stereo-seq

- ・ 開催時間： 10:00～11:40
- ・ 開催場所：ホワイエ内 STOmics展示ブース⑤
- ・ 対象領域：腫瘍微小環境、炎症、免疫、シングルセルオミクス
- ・ 内容：基礎解説/Viewerを用いたデモデータの紹介

Spatial Transcriptomics

High-Resolution & In Situ RNA Capture

STOmics



2022年5月発刊
Cell誌の表紙

STOmicsとは、Stereo-Seq*と呼ぶシーケンス技術に応用した空間的・領域特異的な遺伝子発現解析（Spatial Transcriptomics）を行うための技術のひとつです。

Poly-T(FF) / コンビネーションアルプローブ(FFPE)を有する検出スポット間の距離は、Subcellular-Scaleの500nmと高分解能で、1細胞あたり数百個のスポットを配置することが可能です。

特定のプローブを用いず、検出対象の遺伝子の種類や生物種を限定しません。

* Stereo-Seq : Spatio-Temporal Enhanced REsolution Omics-Sequencing

【解析参考例】

イメージング画像に統合されたRNA発現情報より、任意の遺伝子を表示。Binning=1では500nmの間隔の空間分解能で遺伝子発現情報をマッピングできます。更に、単一の細胞エリア毎に発現情報を統合することで、シングルセルの空間トランスクリプトーム解析を行うことができます。

